



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)札幌新センター構築計画	階数	地上3階
建設地	札幌市白石区東札幌2条1丁目104-1、301-2	構造	S造
用途地域	近隣商業地域・工業地域、準防火地域	平均居住人員	1,150 人
建物用途	事務所・学校	年間使用時間	5,000 時間/年(想定値)
竣工年	2019年3月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	7,627 m ²	評価の実施日	2018年4月17日
建築面積	3,821 m ²	作成者	
延床面積	10,334 m ²	確認日	
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	92%
③上記+②以外の	92%
④上記+	92%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

音環境	3.2
温熱環境	3.8
光・視環境	3.6
空気質環境	3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

機能性	3.7
耐用性	3.6
対応性	3.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 4.4

生物環境	4.0
まちなみ	5.0
地域性	4.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

建物外皮の	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システ	2.4
効率的運用	4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

水資源保護	3.4
非再生材料の	2.5
汚染物質回避	2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.3
地域環境	3.3
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>【中庭型の空間構成】 “外に閉じ、内を開く”空間構成</p> <ul style="list-style-type: none"> 開放的なピロティと地域とつながるランドスケープによって街とのつながりを実現する。 執務空間は回廊(ダブルデッキ)を介した中庭からの採光によって快適な環境を実現する。 15m×15mの架構計画によるフレキシブルな無柱空間とし高い可変性を実現する。 	<p>A 省エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 亜寒帯に配慮した高い外皮性能(ガルバリウム鋼板+外断熱) BEMSによるエネルギー監視システムの導入
<p>B 省資源等</p>	<p>D 雪処理</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物1階部分にピロティを設けることで、冬季の歩行空間に配慮した。 敷地の周辺部に植栽帯を設け、冬季の堆雪スペースを確保した。 一部ロードヒーティングを設置し、歩行者に配慮した。
<p>C 緑化</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域(藻岩山の森)の植生とつながるランドスケープ 敷地周囲のオープンスペースを緑化することで、周辺環境の向上に貢献している。 敷地内を緑化し、高木を植えることで暑熱環境を緩和している。 	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3)
 (仮称)札幌新センター構築計画

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質							3.9	
Q1 室内環境				0.40			3.6	
1 音環境			3.2	0.15			3.2	
1.1 室内騒音レベル		執務室NC40目標、高い吸音性	3.0	0.40				
1.2 遮音			3.0	0.40				
1 開口部遮音性能			3.0	0.59				
2 界壁遮音性能			3.0	0.40				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	0.01				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	0.01				
1.3 吸音		天井と床に吸音材	4.0	0.20				
2 温熱環境			3.8	0.35			3.8	
2.1 室温制御			3.8	0.50				
1 室温			3.0	0.38				
2 外皮性能	省エネ	垂寒帯に配慮した高い外皮性能	5.0	0.26				
3 ゾーン別制御性		ゾーン毎空調個別方式	4.0	0.36				
2.2 湿度制御		直膨型全熱交換器により湿度50%を目標とした制御	5.0	0.20				
2.3 空調方式			3.0	0.30				
3 光・視環境			3.6	0.25			3.6	
3.1 昼光利用			3.0	0.30				
1 昼光率			3.0	0.60				
2 方位別開口								
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	0.40				
3.2 グレア対策			3.0	0.30				
1 昼光制御	省エネ	執務エリアにブラインドを設けることによりグレア対策	3.0	1.00				
2 映り込み対策								
3.3 照度		執務空間750Lx以上	4.0	0.15				
3.4 照明制御		単位毎に照明制御している	5.0	0.25				
4 空気質環境			3.8	0.25			3.8	
4.1 発生源対策			4.0	0.50				
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を全面的に使用	4.0	1.00				
4.2 換気			4.0	0.30				
1 換気量		30m ³ /h・人の確保	5.0	0.33				
2 自然換気性能			3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		排気との6m以上の離隔	4.0	0.33				
4.3 運用管理			3.0	0.20				
1 CO ₂ の監視			3.0	0.50				
2 喫煙の制御			3.0	0.50				

Q2 サービス性能				0.30	-	-	3.7
1 機能性				3.7	0.40		3.7
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40		
1	広さ・収納性			1.0	0.32		
2	高度情報通信設備対応			3.0	0.32		
3	バリアフリー計画			3.0	0.36		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30		
1	広さ感・景観 (天井高)	天井高さ3m		5.0	0.34		
2	リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースと自動販売機を設置		5.0	0.32		
3	内装計画	リラックスできる内装計画		5.0	0.34		
1.3 維持管理				4.5	0.30		
1	維持管理に配慮した設計	内外装に防汚性の高い材料を使用		4.0	0.50		
2	維持管理用機能の確保	清掃員控室の確保		5.0	0.50		
2 耐用性・信頼性				3.6	0.30		3.6
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50		
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する		4.0	0.80		
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30		
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源		3.0	0.20		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源		3.0	0.10		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源 厨房排気ガルフバリウム使用		5.0	0.10		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源 給水・給湯・汚水でB種		4.0	0.20		
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源		3.0	0.20		
2.4 信頼性				3.8	0.20		
1	空調・換気設備	空調の系統区分		4.0	0.20		
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20		
3	電気設備	非常用発電機、異なる変電所からの引込の二重化		5.0	0.20		
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA		4.0	0.20		
5	通信・情報設備			3.0	0.20		

3 対応性・更新性			3.7	0.30		-	3.7
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	
1 階高のゆとり		階高3.9m以上	5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率>0.1	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性		運用室と中庭の廊下。配管とリケーブルラック設置にて将来更新ルートの確保	5.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性		運用室と中庭の廊下。配管とリケーブルラック設置にて将来更新ルートの確保	5.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	4.4
1 生物環境の保全と創出	緑化	周辺地域の藻岩山の植生によるランドスケープ	4.0	0.30		-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化	低層建物、セットバック、桜並木の活用	5.0	0.40		-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30		-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	ピロティによる都市空間への貢献	5.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	外断熱に高断熱	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.92	2.4	0.50		-	2.4
4 効率的運用			4.0	0.20		-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00		-	
4.1 モニタリング	省エネ	BEMSによるエネルギー監視システムの導入	5.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1 モニタリング	省エネ			-		-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	2.7
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水		節水型便器利用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60		-	2.5
2.1 材料使用量の削減	省資源	評価する取り組みを参照	3.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	省資源		3.0	0.22		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				2.6	0.20		-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.5	0.70		-	
1	消火剤	省資源		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源		2.0	0.50		-	
3	冷媒	省資源		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	3.2
1 地球温暖化への配慮		省資源	CO2算出による	3.3	0.33		-	3.3
2 地域環境への配慮				3.3	0.33		-	3.3
2.1 大気汚染防止		省資源		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 悪化 雪処理		3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				4.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	省資源	雨水100mm以上設計	5.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		自転車置場、駐車場の確保	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	室内にゴミ置場の確保、堆雪スペースの確保、一部ヒーティング	5.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1	騒音			3.0	1.00		-	
2	振動			-	-		-	
3	悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40		-	
1	風害の抑制			3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制				-		-	
3	日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

1 建物概要

建物名称	(仮称)札幌新センター構築計画	BEE	1.5	BEEランク	A
建物用途	事務所,学校,				
延床面積	10,333.9 m ²				

2 重点項目への取り組み

地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	レーダーチャート ★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★★☆	
	雪処理	★★★★★	

3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 23.1 最低点 6.6)		合計 15.5点 /23.1点	
Q1 温熱環境	スコア 1.0 /1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア 1.3 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.2 /2.0
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 4.8 /10.0
		LR1 効率的運用	スコア 3.2 /4.0
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)		合計 14.1点 /23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.7 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 4.7 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.1 /1.9
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.3 /5.0
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.9 /4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		合計 12.5点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 3.6 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.5 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 6.0 /6.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.4 /2.3		
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計 3.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 2.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数